

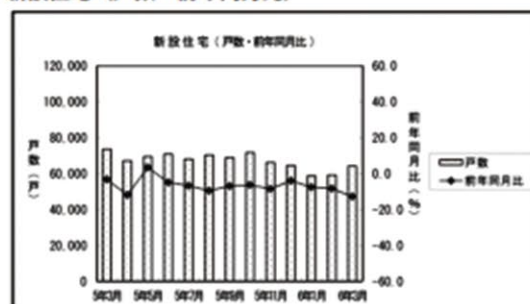
銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎

4月の銅の概況および5月の見通し (2)

予想レンジ		
LMEセツル	9,500-10,500ドル	●
建値	147万円-160万円	●
為替	150円-158円	円安
(1か月間TTM)		

新設住宅 (戸数・前年同月比)



出典 国土交通省統計

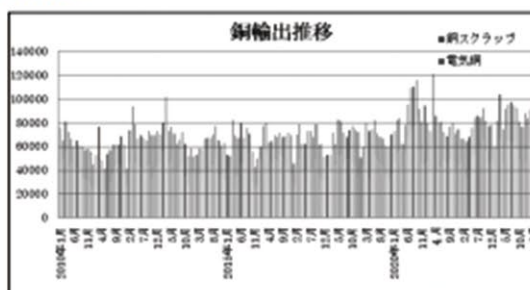
貿易関連指標

【輸出】

電気銅は-5.1%の6万3,931 t。
スクラップは+12.1%の4万555 t。

	1月	2月	3月
電気銅	5万8092 t	6万3539 t	6万3931 t
前年比	+31.1%	+11.6%	-5.1%
スクラップ	2万5632 t	2万7187 t	4万555 t
前年比	+65.3%	+12.4%	+12.1%

輸出推移

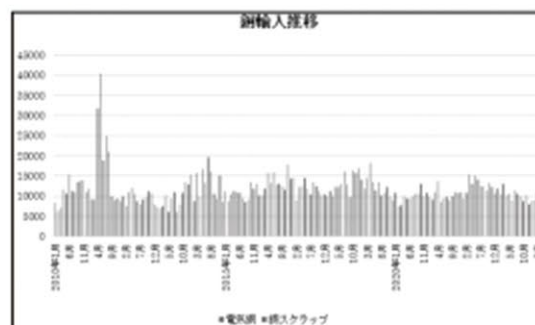


【輸入】

電気銅は-33.6%の583 t。
スクラップは-15.3%の1万361 t。

	1月	2月	3月
電気銅	596 t	1009 t	583 t
前年比	+358%	+1085%	-33.6%
スクラップ	8200 t	7917 t	1万361 t
前年比	-30.7%	-23.4%	-15.3%

輸入推移

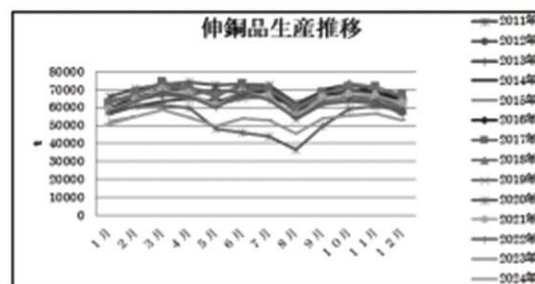


出典 財務省貿易統計

前月の国内指標

【伸銅品生産】

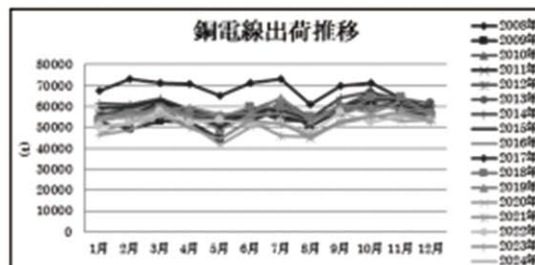
3月伸銅品生産量速報値は5万6,430トン、前年同月比4.3%減少。単月の生産量としては、前年同月比で27か月連続のマイナスとなった。これだけ長期のマイナスは、1980年から82年の28か月連続マイナス以来である。また3月単月の生産としては、2020年よりも少なく、2009年リーマンショック以来の少ない量となった。



出典 日本伸銅協会

【日本電線工業会発の出荷速報 (推定)】

前年比+0%の55,300 t。
内訳は国内が-3%、輸出が+129.2%。



出典 日本電線工業会

国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると2月の自動車生産台数は前年比-16.1%の58万8,354台。輸出は前年同月比+13.7%の33万2,992台。

(次頁へつづく)

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると4月の自動車販売台数(軽除く)は前年比-5.7%の20万7,536台。

【伸銅品生産】

3月伸銅品生産量速報値は5万6,430トン、前年同月比4.3%減少。前年同月比27か月連続のマイナスとなった。

これだけ長期のマイナスは、1980年から82年の28か月連続マイナス以来である。また3月半月の生産としては、2020年よりも少なく、2009年リーマンショック以来の少ない量となった。

やはり自動車向け、特に端子コネクタの需要が全体の押し上げを支えている。また、銅管も需要期に入り、少し増加気味になり、今後の回復が期待される。

伸銅品の各用途別の需要概況は、伸銅品の回復をけん引していた自動車向けだが、不正問題に端を発し、国内自動車の減産が伸銅品の生産にも影響が出てきた。ただ、中国でのスマートフォンの生産が堅調で、青銅板条などの回復をけん引している。

銅条：同比19ヶ月連続マイナス。車載向けの半導体とコネクタの好調が支えていたが、国内自動車減産の影響が出て来た。ただ、3月にスポットで車載向けの半導体の需要が増えたようだ。民生品のデジタル家電など半導体リードフレームは、在庫消化中でまだ需要回復しない。スマートフォンは、米国向けの2024年モデルが伸びている。また中国、韓国メーカーの新型モデルも堅調である。

黄銅棒：同比27ヶ月連続マイナス。相変わらず住宅着工件数が伸びず、回復が遅れている。ただ、ガス機器は底打ち感である。回復が見られた自動車向けだが、自動車減産の影響を受けて、在庫も少し増えたようだ。

【電線】

前年比+0%の55,300 t

内訳は国内が-3%、輸出が+129.2%。

【見通し】

【自動車】

4か月連続減少。前月に続きダイハツ、トヨタ問題による生産販売低迷。来月以降回復との予想。

【伸銅品生産】

やはり自動車向け、特に端子コネクタの需要が全体の押し上げを支えている。また、銅管も需要期に入り、少し増加気味になり、今後の回復が期待される

【電線】

3か月連続プラス。今後に注視。

【スクラップ景況予想】

流通(一次同屋)、銅建値が138万から156万と急騰!。在庫は伸銅品生産減、発生減から在庫薄。

需要面に関してはやや引き締まり。自動車生産量は27か月連続減少だが来月以降の回復期待から。

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。

①米FRBの金融政策：FRBは6会合連続で政策金利を据え置いた。パウエル議長は「次の政策金利の変更が利上げになる可能性は低い」とハト派的な姿勢も示したことから年内利下げ期待が台頭した。

今後は利下げも意識した展開になるのではないかと。

②日銀の金融政策：ドル円が160円を付けた状態で介入があったとの見解や再び155円台で2回目の介入があったとの見解。また岸田首相と日銀の植田総裁が会談し、「密接な連携」を確認したことから150-155円でのレンジ内に動きになるのではないかと。

これらを踏まえた今月の銅価格は9,500-10,500ドル(セツル)との予想。

ドル円値は150円~158円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては147万-160万円程度と予測している。

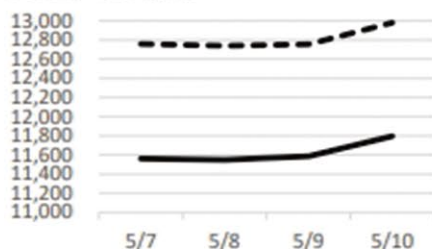
(「4月の銅の概況および5月の見通し」おわり)



金銀山元建値週間推移

5月7日~5月10日

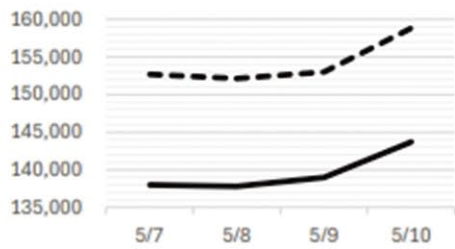
金山元建値週間推移



	5/7	5/8	5/9	5/10
--- 金小売	12,757	12,739	12,755	12,978
— 金建値	11,561	11,549	11,585	11,796

4月平均	建 値	小 売
金(¥/g)	11,533.14	12,712.57
銀(¥/kg)	137,360	151,570

銀山元建値週間推移



	5/7	5/8	5/9	5/10
--- 銀小売	152,680	152,130	153,010	158,840
— 銀建値	138,010	137,800	138,980	143,700